



BべEテTルH通E信L

2021年2月号(第211号)

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 Tel 089-925-5000
ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

「オンライン面会のご紹介」

はじめまして。緩和ケア病棟看護師長の赤松です。世界的な災禍が起り、1年が経過しました。私たちの価値観や生活様式に様々な変化が起こってきました。今なお続く自粛生活は、病院を利用される患者さまやご家族の皆さんには不自由をおかけしています。入院病棟では、「面会制限」が行われており、入院した方にお会いになれないことで、大変辛い思いをされていることと思います。今回は面会制限の中で生まれた「オンライン面会」についてご紹介いたします。

緩和ケア病棟では患者さまの不安や寂しさ・心の痛みがご家族や大切な人との「つながり」や「きずな」で緩和される事が多く、「ご家族や大切な方との時間」は非常に重要になります。ご家族に面会自粛をお願いするということは、私たちが大切にしてきた「つながり」「きずな」を重視したケアが薄れていってしまう事になりスタッフも混乱しました。

そこで患者さまとご家族の「つながり」が途切れないようにと「オンライン面会」がスタートしました。オンライン面会とはテレビ電話ツールを活用し、音声だけではなくお顔を見ながらお話しをすることです。音声だけでは感じ取る事の難しい、うなずきやちょっととした表情の変化を見る事ができるため電話よりも実際の面会に近い方法といえます。パソコンやスマートフォンがあれば初めてテレビ電話をされるご家族も問題なく実施する事ができます。1日の大半をベッドで過ごされている方がオンライン面会を始めると「今日はこんなことをしたよ。」と身振り手振りで楽しそうに会話をされている姿を見て、びっくり！スタッフも幸せな気持ちに包まれます。入院環境が少しでも伝わるようにと名カメラマン達が日々奮闘し頑張っています。これからも患者さまやご家族の皆さんに良い時間を過ごして頂けるよう努めてまいります。



「ああ…コロナさえなかったら…」とつい不安や不満な事ばかり考えてしまっていた毎日ですが、今まで見落とされそうになっていた日常を振り返り自分たちのケアの本質について立ち止まる時間が持てたのは「コロナ禍ならでは」なのかもしれません。最後に患者さまやご家族の皆さんには優しい声をかけて頂くことが多く、面会制限にご協力を頂いていることをこの場をお借りして御礼申し上げます。

(ホスピス緩和ケア病棟 看護師長 赤松 真美子)



「私たちは美しい地球を蘇らせることが出来るのか？」

①炭酸ガス排出量の大幅削減という重い課題



10月中旬、我が家の中庭の木の梢の間に、大きな直径 16 cm のアシナガバチの巣を見つけました（写真 1）。



【写真 1】

大きさと形状からアシナガバチの巣だと分かりました。業者を呼んで駆除しようかとも考えたのですが、蜂が周囲を飛び回るでもなく巣でじっとしているのでそのままにして時々様子を見ていきました。11月末には巣に留まっている蜂は殆ど見かけなくなり、12月始めには（写真 2）の様にもぬけの殻でした。自然現象は自然に見守るのが一番良いなと思いました。

「地球温暖化の進行を抑止するために炭酸ガスの排出削減を！」とのスローガンが叫ばれて久しいです。この大きなハチの巣を地球温暖化と直接結びつけるわけには行きませんが、地球温暖化は確実に進行しています。毎年激化する異常気象（異常高温・低温、ゲリラ豪雨、スーパー台風、洪水・干ばつ等）、北極・南極等での氷解による海面レベルの上昇、生物多様性の減少等々。それでは CO₂ 排出削減の為の日々の実践をどのようにすれば良いのか？

皮肉なことに、コロナ禍の中で昨年始めごろより経済産業活動が停滞し始めてから地球環境が奇麗になり生命が住みやすくなっています。例えば、大気汚染が深刻だったインドで首都などではロックダウン後 2 週間であつという間に空気が奇麗になり青空が戻ったり、「水の都」ベネチアでは普段濁っている運河の水路が底まで透け、魚の群れがあちこちで目視出来た等。これらは交通量の激減と工場の稼働停止、下水路への廃棄物の減少等が大きな要素となりました。

生産活動の抑制でそんなに良いことがあるのなら、今の状況を続ければ良いという考え方の人もいるかもしれません。しかし、私たちがいま生きている資本主義社会は基本的に経済成長を目指して成り立つ社会です。雇用（労働）⇒賃金⇒消費⇒経済活動の発展・資本の拡充⇒雇用の拡大というように経済活動を回していくには物・技術の生産・創造や工場の稼働、売り買い、人の流れ（交通）が活発になるほど経済社会が発展するということになります。それゆえ産業経済活動を維持しながら CO₂ 排出量を大幅に削減するのは非常に難しく、日本では今まで各種施策を施して来たにもかかわらず 1990 年から 2018 年までの **28 年間で 2.8%** しか低下していません。

2016 年のパリ協定での「2100 年までの気温上昇を産業革命以前と比較して 2°C 未満に抑える」という目標さえ非常に危険であると多くの科学者が警鐘を鳴らしています。現実的には、2030 年までの 10 年間で CO₂ 排出量を **半減**しないと「**地球環境は壊滅的になる**」と言われています。果たして孫の世代は安心して暮らせるのか？ 今の自分たちが何とか生活出来ればそれで良いのか？ これから 6 回の連載で皆さんと一緒に考えて行きましょう！



【写真 2】



（ ホスピス・内科医師 佐々木 徹 ）



医療安全
管理室より

医療安全委員会では、院内で様々な活動をしていますが、その一つとして、年に2回全職員対象に研修を行い、安全対策をとっています。

今年度はコロナ禍もあり会場は制限し、各部署はリモートで行いました。

今回のテーマは、『KYT』についてです。

KYTとは、K：危険（Kiken）
Y：予知（Yochi）
T：トレーニング（Traning）の略です。

元々は、建設・製造現場で使用されており、作業に潜む危険を話し合い、あらかじめ予知・対策を行う活動のことです。

人間は、そもそもミスを起こしやすい特性があります。

KYTを導入することで、ヒューマンエラーを減らすことができます。

KYTの種類は、いくつかあります。

●イラスト KYT（4R法）

→イラストから危険を予測し、対策を立てる。

※気が付かなかった日常の危険を認識できます。



●指差し呼称

→指で差して声を出し、エラーを減らす。

※駅員さんなど、日常生活でも行われています。

皆さんも出掛ける前に、「ガスよし！ストーブよし！鍵よし！」

と、指を差しながら声を出して確認していくけば、外出してから心配しなくて済みますね！



●健康確認

→健康状態を確認・問いかけ

※日々のコミュニケーションにも繋がる。

健康状態が不良のままでいると、ヒューマンエラーや災害に繋がります。

そのため、健康確認を行うことが重要となります。

健康確認の観察項目としては「姿勢」、「動作」、「眼」、「表情」、「会話」などが挙げられます。これらの項目に対して、職員同士・家族同士で健康状態を把握してみてください。



皆さんも自宅や職場で、KYTを活用して、安全な日々をお過ごしください。

医療安全委員会では、大切なご家族（患者さま）とスタッフの安全を守れるよう、日々努力し頑張っておりますので、安心して任せて頂けたらと思います。

（ 医療安全管理責任者 3階西病棟看護師長 松井美枝子 ）

外来診療日のお知らせ

◎ 豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

2月10日（水）、2月24日（水）



◎ 多田 聰 医師（神経内科）

2月4日（木）、2月18日（木）

◎ 大西 哲史 医師（内科）

毎週火曜日のみ診察いたします

（月曜日午後の漢方外来、金曜日午前の外来診察は休診いたします。）

私たちといっしょに

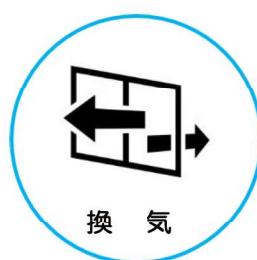
新型コロナウイルスの感染予防をしましょう！



マスク着用



手洗い



換 気

日頃の健康管理が大切です



医療法人聖愛会
松山ペテル病院
道後ペテルホーリー
ペテル在宅診療部
ペテル三番町クリニック

新型コロナウイルス感染対策のため、日々ご協力ありがとうございます。当院入館の際にはマスクを必ず着用して頂き、体温測定と手指消毒のご協力を引き続きお願いいたします。詳しくは当院ホームページをご確認下さい。



稜線に
光り輝く
初日の出

(四季)

光差し
辺り色づく
冬暁

(妻鳥 あおい)

こしかたの
人ととの出会い
除夜の鐘

(上野 節子)

日めくりの
表紙飾るや
宝船

(野中 政彦)

ペ
テ
ル
句
会



投句箱は受付・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。

『ペテル通信』についてのご意見やご要望はご意見箱へお願いします。

掲載中の写真についてはご本人様の許可を得ています。

発行日 2021年1月25日